

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170201184		
法人名	フォレストバレー 株式会社		
事業所名	グループホーム東福原の家		
所在地	鳥取県米子市東福原7丁目10-35 (電話) 0859-38-0050		
評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号		
訪問調査日	平成20年9月3日	評価確定日	平成20年9月18日

【情報提供票より】(20年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(150,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	133 円
	または1日当たり 1,333 円			

(4) 利用者の概要(7月 31 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	1 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86 歳	最低	84 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤クリニック、ふれあいクリニックやざき、小徳歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田や畑が残っている皆生温泉に程近い住宅街に、木造の広々とした1階建てのホームが東福原の家である。中に入ると、明るさ、広さ、清潔さに思わず目をみはる。「自分たちが暮らしたい」と思えるホームづくりに、職員全員が取り組み、常に 利用者の立場にたった支援に努めておられる。例えば入浴時間は決めず、利用者の希望にあわせた時間に支援をするなど、自己選択、自己決定を大事にしておられる。日々のレクリエーションの活動内容も豊富で、毎日の体操や、個々の能力に応じた役割づくりの効果か、16年6月の開設以来、要支援へ改善した利用者が4名おられ、そのうち3名が自宅、1名がケアハウスに退居されている。決して介護度が低いひとたちでないが、持てる力を発揮する場面を多く持ち、生甲斐のある支援に努めておられた姿が印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題であった休刊中の広報誌を毎月発行して家族に配布、重要説明書へホーム以外の苦情受付の連絡先の記載、災害訓練の実施等は改善されていた。しかし地域推進会議の開催はメンバーの協力が得られにくく、今年度はまだ1回の会議が開かれたのみであった。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	訪問調査の時にホーム長、介護支援専門員また事務長なども同席し、全職員が参加し評価・改善に取り組んでいる姿勢が伺われる。管理者及び介護支援専門員が、職員へ自己評価・外部評価の意義を話し、全職員が参加し自己評価に取り組んでいる。1階の避難路の改造など指摘があった事項に関しては、順次検討し改善に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、5月に今年度の第1回が開催され、メンバーの一員である包括支援センター職員や自治会の欠席が多いので、呼びかけの協力を依頼すると共に、地域性をいかした馴染みの関係づくりについて話し合いがされた。しかし、具体的な内容までは討議できなかった。今後引き続き討議されると共に、地域や行政に理解や支援を得る為にも、定期的な開催にむけて取り組みをされることを期待します。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不安への対応は、面会時や毎月の近況報告、電話で積極的に聞き、得られた意見は、前向きに受け止め運営に反映し、サービスの質の向上に努めておられる。今後、家族会の開催を増やし、より信頼や協力関係が築かれることを期待します。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日頃の散歩時の挨拶や、畑の野菜作りでは、地域の方から肥料についてや、作り方のアドバイスをいただいている。また地区の公民館祭には入居者の作品を出展協力をし、他の利用者と共に見学にでかけている。毎年ホームで行なわれる開園祭には、地域の方を招待するなど交流に努めておられる。今後一層地域との連携を広げ、ホームのよさを積極的にアピールする機会と捉え、より地域に開かれたホーム作りを支援されることを期待します。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりが、日々その人らしく、生甲斐を持って、楽しく暮らしていただだけ、共に生きるケアを目指した事業所独自の理念を作り上げており、玄関のよく見えるところに掲示しており、職員、家族、来所者に確認できるようにしてあった。	○	これまでの理念に加え、地域密着型サービスの役割を目指した内容を盛り込まれることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいて、職員の採用時には必ず理念を伝え、何を大切に利用者に向き合い、日々ケアするか理解を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃散歩時の挨拶の率先や、地域の公民館祭には、開設当初から利用者の作品を展示し、見学に行っている。畑の野菜づくりでは、近所の方から肥料や作り方のアドバイスをいただいたり、ホームの開設祭には招待するなど色々な機会を捉え交流に努めている。		地域に密着した施設を目指すためには、自治会の協力が不可欠と考えられる。自治会加入の検討を望みます。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、自己評価も各自が表に書き入れ、それを管理者がとりまとめていた。外部評価の結果も職員に印刷物を渡し、共有しながら改善にむけて話し合い、可能なものから取り組んでいる。		週1~2回位管理者・ケアマネを中心として職員全体で意見交換・勉強会を実施されている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の必要性は理解しているが、自治会長、民生委員等は他の任務も多く、望ましいとされる2ヶ月に1回でなく3ヶ月に1回開催が現状である。会議内容に苦慮していることを話された。今後ホームに対する意見や自治会の不参加が軽減されるよう支援センターに協力依頼をしている。意見を取り入れサービスの質の向上、なじみの関係作りに取り組んでいる。	○	会議内容に今回の自己評価や外部評価の結果や、改善に向けての取り組みについて、報告をしたり意見をいただき、その後もモニター役になっていただく等推進会議を活かし、そこでの意見がサービスの質の向上に繋がることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	米子市の担当職員に空き部屋や状況を話し、事業所の情報を共有するように努めている。サービスの質の向上について市役所、支援センターとの連携を行っている。必要時は市担当者などに相談・協力を求め連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族に広報誌を送り、近況や利用者から家族にあてたメッセージを書きこんでいるものが確認できた。あわせて健康、金銭管理、写真を利用するなどしての行事の報告、職員異動等を知らせている。面会も多く来訪時連絡し、異常時は電話等で連絡、対応をされている。		広報誌の下段に担当スタッフがコメントを記入しており、利用者に沿った報告があり家族ともなじみの関係づくりができていますので今後も継続されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームや職員の改善すべきこと等の意見書用紙が玄関におかれていた。昨年の評価で改善課題としてあがっていた苦情受付窓口の記載も重要説明事項に記入され、家族等が意見や苦情を言いやすい機会が作られていた。また家族からベットから落ちる危険があるという意見に、早速床に畳を敷き不案を解消する等家族の意見が運営に反映されていた。	○	苦情の公表をしていない。今後、公表に向けて対応されたい。苦情処理・相談の記録がないので整備されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職があったときは家族には広報誌等で知らせるが、利用者には混乱の恐れがあるので知らせない。新職員は紹介している。職員の異動・離職による精神不安は特に見られず、馴染みの関係が早くから築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員の業務手順にそった育成や、外部研修、資格取得に向けての研修奨励、それに伴う費用援助等、研修を受ける機会を、小人数の中でやりくりしながら確保し職員を育てる取り組みに努めておられる。また研修内容については日々の引継ぎや会議の中で共有しているとのことであるが、記録が不十分であった。		職員での聞き取りでも研修内容の報告や話し合いもされているので、今後記録をし、保存されることを望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、相互訪問研修等を通じてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族と事前に見学に来ていただき、お茶を飲んでいただいたりしながら、職員や、他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるように努めている。また、管理者やケアマネが生活習慣や病気等の状態把握、なじみの家具、カーテン等の相談を行いながら雰囲気になじめるように取り組んでおられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場におかず、一緒に食事の準備をしたり、共に過ごしながら、人生の先輩として敬い、昔ながらの料理を教わったり、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係作りを日々築いておられる。		食後はほとんどの利用者が自分で下膳され、自ら食器を洗っておられ認知症の進行が少しでも遅くなるような支援が見受けられました。今後も継続できることを期待します。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者の生活歴やライフスタイル、入居に至った経過等をプライバシーに気をつけながら職員間で共有し、家族、本人、関係者からホームでの暮らし方についての思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望をもとに、日々関わっている担当者や職員間での気づきや意見を話し合い、介護計画作成者担当を中心に利用者本意の介護計画書の作成、サービス担当者会議が実施され家族に説明がなされていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングの実施は定期的に行われていた。期間に応じての見直しや、見直し以前に変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望があれば外出支援等行っている。また、通常家族がかかりつけ医に通院介助をしておられるが、都合のつかない時には、家族に代わり通院支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望する医療機関や、事前に入居前に話し合い、納得が得られた方は事業所の協力医に変更していただき、2週間に1回の訪問受診や、希望の医療機関への受診支援をはじめ、週1回訪問看護師による健康指導をうける等適切な医療支援と記録が整備されていた。緊急時には夜間を問わず主治医に連絡が取れるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、入居時重要事項説明書等で説明を行うと共に、かかりつけ医や家族とも状況の変化のたびに話し合いがなされいるとのことである。今後主治医と話し合い全員で方針を検討する予定。		利用者や家族の意向を聞き、主治医と関係を密にし方針の検討をされたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや、対応をしないよう日頃から話しあっている。調査日の観察でもきちんと対応をされていることが確認できた。広報誌を公民館等に配布することは、プライバシー保護のために現在は行なわれていない。重要事項説明書に秘密保持に関する記載している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課表は組まれているが、職員側の都合を優先することなく、その日をどのように過ごしたいか、一人ひとりのペースや希望にそって、レクリエーションの内容や散歩、買物等柔軟に支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と相談しながら決めるようにしている。誕生日には誕生者の好物を3食、おやつに提供する等独自の取り組みや、朝食はパンか、ご飯どちらかが選べられる。利用者と一緒に収穫した畑のモロヘイヤや南瓜が食材で使われていた。準備、片付け、食器洗いも自主的にされていた。食事は職員と楽しみながら同じ物を一緒に食べる支援がなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は時間や曜日を職員の都合で決めることなく、一人ひとりの希望やタイミングにあわせて支援しており、入浴時間もまちまちである。就寝前の希望があれば支援する意向であるが、現在は夕食前が一番遅い入浴者である。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たみ、新聞紙をつかってゴミ箱おり、ティ袋にお茶つめ、おやつや団子づくり等訪問調査日も色々な場面で楽しみながらそれぞれの役割をしておられた。玄関の大きな壺には花が利用者の手により活けられていた。毎日の暮らしの中でも、体操、書道、折り紙、歌等の活動メニューが豊富に取り入れられ、張り合いや喜びのある日々が過ごせる支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材、おやつ、畑に植える野菜苗、庭の花苗等の買物や散歩を日常的に取り入れたり、遠出のドライブや外食を希望にそいながら行い、メンバーが固定しないよう配慮しながら、季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう外出支援がなされている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、(玄関はセンサーを設置)鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定して年1回の火災訓練が実施され、災害時の備食や懐中電灯等の備品が準備されていた。職員や家族への連絡網は整備されている。今後地域住民の参加、協力を運営推進会議で呼びかけながら、定期的に訓練されることを望みます。		火災訓練等今後も自治会等地域の協力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の食事量や、水分量を毎日チェック表に記載し職員は、カロリーの過不足や水分不足にならないよう支援している。キザミ食、粥食の状態で入居された利用者も、日々の取り組みの中で、普通食に改善された事例もある。食事がきちんと摂取できるよう利用者の口腔内の把握もされ、嚥下やそしゃくの支援が行われていた。		
あど					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の上がりかまちが広く外出など出入りが楽で開放感がある。廊下は天窓から採光を取り入れ穏やかな光で落ちついた雰囲気の明るい建物である。生け花や観葉植物、利用者の書画、作品が飾られ、生活感や季節感を取り入れ居心地よく過ごせるような工夫がなされている。また懐かしい童謡や歌が流れていたり、食事づくりの音や匂いなど、五感刺激に配慮された居心地の良い共有空間に努めておられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前見学などで、本人や家族と相談しながら、使い慣れたタンスや好きな置物、ぬいぐるみ等馴染みの生活用品が持ち込まれていた。カーテンやカーペットにも配慮され、自作の塗り絵のカレンダーを部屋ごとにかざる等、その人らしく過ごせる居室づくりに努めておられる。部屋は掃除が行き届いていた。		